

「探偵は BAR にいる」のステール写真から、三岸好太郎作品
(レプリカ)が写っているものをご提供いただきました。

協力:東映



カウンターの壁には「立てる道化」(1932 年)が。三角帽子の道化が腕組みをして立っている図です。実物はかなり大きな作品です。



探偵がいつも座る席の後ろには、三岸晩年の
〈飛ぶ蝶〉(1934 年)が。ピンで留められた蝶のう
ちの一匹が、ピンをはねのけて舞い上がろうと
する図。

背後に見えるのは〈道化〉(1930-31 年頃)。服の
赤い色と勢いのある筆触が印象的な作品。

札幌ススキノにあるバーの設定ですが、三岸好太郎も実はススキノ生まれ。因縁を感じます。これらの他にも、〈北大のポップ
ラ並木〉、『筆彩素描集 蝶と貝殻』より〈旅愁〉も含め、計 5 点のレプリカがバーのセットの中に飾られているとのこと。映画
の中でぜひ見つけてみてください。